

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 (看護学)	氏名	崔 英愛
学位授与の条件	学位規則第 4 条第① 2 項該当		
論文題目 Efficacy of a Disease Management Program Focused on Acquisition of Self-management Skills in Patients with Chronic Viral Hepatitis in China (中国における慢性ウイルス性肝炎患者のセルフマネジメント技術の獲得に焦点を当てた疾病管理プログラムの有効性)			
論文審査担当者			
主 査	教授	梯 正之	印
審査委員	教授	片岡 健	
審査委員	教授	折山 早苗	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>中国は、肝臓がんの罹患率及び死亡率が世界で最も高く、その要因は高い B 型肝炎及び C 型肝炎の罹患率が挙げられる。B 型・C 型肝炎には抗ウイルス療法が推奨されるが、中国では患者に治療に関する十分な情報提供やカウンセリングが行われず、これが治療中断や民間療法への依存につながっている。また、長期治療による経済的負担、副作用によるうつ傾向の発症、疾病の特徴による社会的孤立や差別などが、肝炎患者の QOL (Quality of Life) や治療のアドヒアランスの低下及び生命を脅かす合併症の発症につながっている。</p> <p>セルフマネジメント教育は、生活行動や負の感情を含む日常のストレスを適切に管理し、問題解決能力を高めるもので、疾患の種類を問わず慢性疾患の重症化リスクを低減し、QOL を高める方法である。そこで本研究では、中国における慢性ウイルス性肝炎患者に向けたセルフマネジメント技術の獲得に焦点を当てた疾病管理プログラムを開発し、この有効性を検討した。</p> <p>まず研究 1 では、中国全国衛生データベース 2016 を使用し、B 型・C 型肝炎の各罹患率の中央値を用いて、全 31 県を高群と低群とに分け、社会経済的要因 16 項目の分析を行った。結果、B 型肝炎の 2 群間比較では、B 型肝炎の罹患率 ($p < 0.01$)、C 型肝炎の罹患率 ($p = 0.02$)、1 人当たりの外来支出費用 ($p = 0.03$) に有意差がみられた。罹患率と社会経済的要因との相関分析では、B 型肝炎の罹患率は C 型肝炎の罹患率と正の相関 ($r = 0.526$, $p < 0.01$) があり、外来費用 ($r = -0.46$, $p < 0.01$)、産前検査率 ($r = -0.547$, $p < 0.01$) と農村部における病院での出産率 ($r = -0.422$, $p < 0.01$) と負の相関がみられた。C 型肝炎の罹患率は都市部の収入 ($r = -0.450$, $p < 0.05$)、農村部の収入 ($r = -0.499$, $p < 0.05$)、農村部の支出 ($r = -0.443$, $p < 0.05$)、農村部での病院出産率 ($r = -0.379$, $p < 0.05$) で負の相関を示した。肝炎の罹患率は、地域の経済発展と病院サービスの利用状況と密接に関連していることが分かった。</p>			

研究 2 では、患者の慢性疾患管理能力を高めるために、疾病の知識や症状マネジメント技術の向上、生活習慣の修正、負の感情を含むストレスマネジメント、セルフモニタリングを構成要素とした慢性ウイルス性肝炎患者の疾病管理プログラムを構築し、中国・天津感染症病院で、抗ウイルス治療を受けている B 型・C 型肝炎患者に対して介入研究を行った。プログラムは、入院中に 2 回の面談教育を行い、退院後 6 月間、毎月 1 回の遠隔教育を行う 6 ヶ月間のプログラムで、看護師である研究者が独自に開発したテキストと手帳を用いて教育を提供した。

適格基準を満たす 60 人の患者を登録し、介入群 30 人と対照群 30 人に無作為に割付した。対照群 4 人が脱落し、プログラムの完了率は、介入群 100%、対照群 86.7%であった。2 群間比較（二元配置反復測定分散分析）において、主要評価項目である慢性肝疾患特異的 QOL 尺度は、介入群がすべての評価ポイントにおいて有意に改善した ($p < 0.001$)。副次評価項目である自己効力感 ($p < 0.001$)、病気に対する重大性の認識 ($p < 0.036$)、自己管理行動の有益性の認識 ($p < 0.001$) と障害の認識 ($p < 0.001$) については介入群が有意に改善した。行動変容については、禁酒 ($p < 0.001$)、食事 ($p < 0.034$) とストレスマネジメント ($p < 0.037$) について介入群が有意に改善した。うつ傾向については、介入群の人数が大きく減少したが、有意差はなかった。ベースラインで介入群に女性が有意に多かったことから、性別を共変量に入れた共分散分析においても、うつ傾向以外の評価指標において、介入群の有意な改善が観察された（すべて $p < 0.05$ ）。患者と看護師の間のパートナーシップの確立、危険因子に関する十分な知識の提供、生活習慣の改善を含む、病院から地域に継続する看護師によるセルフマネジメント教育によって、肝炎患者の QOL と自己管理行動が改善したと考えられ、本プログラムの有効性が示唆された。

以上の結果から、本論文は慢性ウイルス性肝炎患者の QOL の向上を目的とした疾病管理プログラムの有効性を示すものであり、中国における慢性ウイルス性肝炎の患者教育の発展に大きく貢献する研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。

最終試験の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	崔 英愛
学位授与の条件	学位規則第4条第①2項該当		
論文題目 Efficacy of a Disease Management Program Focused on Acquisition of Self-management Skills in Patients with Chronic Viral Hepatitis in China (中国における慢性ウイルス性肝炎患者のセルフマネジメント技術の獲得に焦点を当てた疾病管理プログラムの有効性)			
論文審査担当者			
主査	教授	梯 正之	印
審査委員	教授	片岡 健	
審査委員	教授	折山 早苗	
〔最終試験の結果の要旨〕			
判 定 合 格			
<p>上記3名の審査委員会委員全員が出席のうえ、平成30年12月20日の第155回広島大学保健学集談会及び平成30年12月20日日本委員会において最終試験を行い、主として次の試問を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ウイルス性肝炎の種類と特徴 2 疾病管理プログラムの介入内容 3 B型肝炎とC型肝炎の共通点と相違点 4 本プログラムと予防対策との関連性 5 本プログラム普及に向けての課題と対策 <p>これらに対して極めて適切な解答をなし、本委員会が本人の学位申請論文の内容及び関係事項に関する本人の学識について試験した結果、全員一致していずれも学位を授与するに必要な学識を有するものと認めた。</p>			